

I. 本部報告事項

1. 活動の概要

2025年度の事業活動は会員企業における生産活動が回復基調となる中、計画した事業と行事を完了することができた。しかし、その状況下でも日本のばね産業を取り巻く事業環境は大きく変貌している。国内外の事業状況は国際情勢の不透明化や地政学的な不確実性が増加する中で、大きな影響を受けている。

会員企業の経営課題の1つである価格転嫁は、会員企業の90%以上が従業員300人以下の中小企業・小規模事業者で構成されていることもあり、ばね業界として客先と協議できる環境整備が不可欠である。当工業会では急騰する原材料費やエネルギー費、労務費等を価格転嫁できる経営環境を積み重ねていくとともに、政府・関係省庁への意見具申と提言を2025年度も継続して実施することで、持続可能で安定した企業経営の実現と強化に貢献している。

一方、保護主義の台頭による国際間取引の見直し、特に追加関税に関しては、国際貿易の円滑化を図るための従来の枠組みであるWTO（世界貿易機関）とTBT（貿易の技術的障害に関する協定）が機能しない状況になっている。追加関税は日本の製造業、特に国内で生産する自動車の競争力低下、国内雇用やサプライチェーンへの深刻な影響を与える懸念が唐突に生じる状況となって、2025年度の期末を迎えている。

2025年4月現在、当工業会は正会員201社、賛助会員35社で構成されており、会員企業で日本のばね産業の生産金額の90%を製造している。政府・関係省庁と関連業界との協働にて、喫緊の課題に対処していかねばならない。

経済産業省の生産動態統計調査において、国内の2025年の金属製ばね生産は表1～2に示す生産金額と生産数量となった。2025年上期のばね生産は国内自動車生産の停滞、関税の影響を大きく受けており、業界としての情報発信の取り組みの重要性を再認識したところである。下期はばね製品への価格転嫁が進む中、汎用半導体不足の影響もあって、ばね市場動向の見通しが難しくなっている。この状況からも日本のばね産業は経験したことがない、新たな局面に入っていると判断できる。表3に国内の自動車生産台数、表4に国内からの輸出台数と対米比率を参考までに示した。追加関税は自動車や自動車部品の輸出入に大きな影響がある中、国内企業が対応できる時間と対策も限られており、今後の状況と動向に注視していかねばならない。

ばねの主要顧客である自動車産業は大きな変革期を迎えており、保護主義の下での国際間取引ではコロナ禍で再構築されたサプライチェーンの見直しと多様化が進められている。新たな地政学リスクはばね業界の変革と経営強化、「レジリエンス」と「共創」を求めている。

国際間取引のルール変更、特に追加関税はばねの主要顧客である自動車産業に大きな影響を与える。対米関税の影響で自動車輸出135万台（輸出比率32.3%）が減少すると、国内生産が縮小し、関連する雇用が失われる可能性がある。また、部品供給体制の再構築が必要となり、生産効率が大きく低下するリスクもある。

当工業会は1948年に設立し、2012年に一般社団法人化した。創立80周年に向けて、日本ばね工業会（Japan Spring Manufacturers Association）の事業活動を会員企業とばね産業界に周知徹底する目的として、「J」「S」「M」「A」をキーワードとして、付加価値を深化させる取り組みを展開している。

「J」: “Join” (参加する) 「S」: “Sustain” (持続する)
「M」: “Motivate” (動機付ける) 「A」: “Advance” (進歩する) “Activate” (活性化する)

① 【 J : Join (参加する)】

＜ばね産業界全体の連携＞ :

会員企業、政府・関係省庁と各都道府県、関連業界団体との連携を強化する。

＜国際連携の構築＞

海外ばね工業会との連携を強化して、グローバルな視点での成長・発展を牽引する。

② 【 S : Sustain(持続する)】

＜持続可能な運営＞

地球温暖化対策、環境負荷低減など持続可能な運営を推進し、社会に貢献する。

＜組織の健全化＞

安定した財務基盤を確保し、会員企業の経営に資するサービスを提供する。

③ 【 M : Motivate(動機付ける)】

＜技術革新の促進＞

新しい技術開発や製品開発を促進し、会員企業と業界の技術力向上を支援する。

＜人材育成と活性化＞

次世代を担う人材育成とキャリアアップを支援し、会員企業の活性化を図る。

④ 【 A : Advance(進歩する)、Activate (活性化する)】

＜ばね産業界の底上げ＞

技術水準の向上、品質管理の強化など、工業会と業界全体のレベルアップを実現する。

＜DX 推進＞

AI、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術を活用し、業務効率化と生産性向上を図る。

この4つのキーワードが示唆するJSMAのミッションとビジョンは工業会の活動指針を簡潔かつ的確に反映している。今後も事業運営（組織力）の強化、情報発信力の強化を通して、デジタル新時代（IoT、AI 活用）を見据えた成長戦略と価値創出の実現を推進していく。

日本ばね工業会の主要な事業活動は、「人と人との繋がり」を重視し、直接対話を中心とした活動を実施してきた。一方、IT・デジタル活用したWeb開催、対面とWebを併用したハイブリッド形式の開催は、デジタル化が事業活動の遂行と活性化に繋がることを示唆し、新たなイノベーションを創出するポテンシャルも示している。

その中で、今後もばね産業の持続的な成長を実現させるべく、2025年度の当工業会の運営においては、委員会活動（総務委員会/技術委員会/標準化会議/技能検定委員会）と支部活動（東部/中部/西部）を強化して、次の3主要事業を推進するとともに、情報発信と事業環境の急激な変化に対応してきた。

- | | |
|------------|------------------------------|
| (1) 標準化事業 | ばねに関する規格・基準の制定と普及 |
| (2) 技能検定事業 | 金属ばね製造技能士の育成、および資格認定試験の受託・実施 |
| (3) 統計事業 | ばねの生産動向、市場規模・動向の把握 |

日本のばね産業は革新的な材料や技術を通じて、世界の製造業に新たな価値を提供し、その成長を支えてきた。今後も更なるばねの技術革新と付加価値の創造によって、国内外の製造業の成長を牽引していくとともに、持続可能な社会の構築に貢献していく。

表1： 金属製ばね 生産金額 (2025年)

2024年	金属製ばね 生産金額 (百万円)	2025年	金属製ばね 生産金額 (百万円)	対前年比
1月	22,407	1月	25,858	115.40%
2月	24,537	2月	27,573	112.37%
3月	26,702	3月	28,901	108.24%
4月	26,050	4月	26,344	101.13%
5月	25,151	5月	25,065	99.66%
6月	26,680	6月	27,862	104.43%
7月	29,432	7月	29,681	100.85%
8月	22,508	8月	22,560	100.23%
9月	28,283	9月	29,258	103.45%
10月	29,368	10月	30,178	102.76%
11月	27,894	11月	26,592	95.33%
12月	26,352	12月	27,244	103.38%
合計	315,364	合計	327,116	103.73%

表2： 金属製ばね 生産数量 (2025年)

2024年	金属製ばね 生産数量 (Ton)	2025年	金属製ばね 生産数量 (Ton)	対前年比
1月	30,539	1月	33,274	108.96%
2月	31,903	2月	34,197	107.19%
3月	32,850	3月	35,085	106.80%
4月	33,690	4月	33,352	99.00%
5月	33,230	5月	31,561	94.98%
6月	34,423	6月	35,155	102.13%
7月	38,118	7月	38,608	101.29%
8月	28,504	8月	27,392	96.10%
9月	33,607	9月	36,417	108.36%
10月	38,507	10月	38,739	100.60%
11月	35,196	11月	32,777	93.13%
12月	33,151	12月	33,405	100.77%
合計	403,719	合計	409,962	101.55%

表3： 日本国内の自動車生産台数 (2025年)

2024年	国内自動車 生産台数	2025年	国内自動車 生産台数	対前年比
1月	578,120	1月	681,744	117.92%
2月	616,763	2月	732,798	118.81%
3月	710,389	3月	724,336	101.96%
4月	646,438	4月	668,785	103.46%
5月	651,285	5月	637,918	97.95%
6月	691,286	6月	726,072	105.03%
7月	804,080	7月	743,521	92.47%
8月	540,881	8月	543,212	100.43%
9月	761,695	9月	760,764	99.88%
10月	816,836	10月	814,155	99.67%
11月	738,897	11月	685,813	92.82%
12月	678,009	12月	691,156	101.94%
合計	8,234,679	合計	8,410,274	102.13%

表4： 四輪車輸出台数と対米比率

年	輸出台数	アメリカ	対米比率
2014	4,465,624	1,537,676	34.4%
2015	4,578,078	1,604,446	35.0%
2016	4,634,033	1,735,480	37.5%
2017	4,705,848	1,736,765	36.9%
2018	4,817,470	1,731,025	35.9%
2019	4,818,132	1,726,139	35.8%
2020	3,740,832	1,384,998	37.0%
2021	3,818,910	1,331,718	34.9%
2022	3,813,239	1,283,934	33.7%
2023	4,422,682	1,485,641	33.6%
2024	4,217,004	1,369,063	32.5%
2025	4,172,815	1,345,817	32.3%

2. 社員総会の開催

名 称	開催日・場所	議 案
第14回 社員総会	2025年5月28日 ホテルルブラ王山	決議事項 第1号議案 2024年度 事業報告の件 第2号議案 2024年度 収支決算の件 第3号議案 役員補欠選任の件 第4号議案 その他 報告事項 1. 2025年度 事業計画の件 2. 2025年度 団体賛助会員年会費及び収支予算の件

3. 会長表彰（2024年度表彰）

社員総会、支部年次大会において次のとおり会長表彰を受けた。

(1) 国家褒章	該当なし		
(2) 本部及び支部役員表彰	東部支部 理事	片平修一	京浜発條株式会社
(3) 本部委員会委員表彰	技能検定委員	石塚 太	平和発條株式会社
(4) 優良ばね製造技能者	プラチナ賞	10社	12名
	金賞	13社	24名
	銀賞	10社	27名
(5) 優良従業員表彰	東部支部	15社	51名
	中部支部	12社	34名
	西部支部	16社	32名

4. 理事会の開催

理事会は5回開催された。

開催日・場所	議案（主な内容）
第66回理事会 2025年5月8日 書面開催（決議）	審議事項 1. 2024年度 事業報告の件 2. 2024年度 収支決算の件 3. 役員補欠選任候補者の件 4. 第14回定時社員総会の件 5. 2024年度 会長表彰受賞者の件 報告事項 1. その他（会員異動等）
第67回理事会 2025年5月28日 ホテルルブラ王山	審議事項 1. 会長（代表理事）、副会長・専務理事（業務執行理事）の選定について
第68回理事会 2025年9月3日 ホテルルブラ王山	報告事項 1. 支部活動報告 2. 委員会活動報告 3. その他（会員異動等） 審議事項 1. 委員会委員一部変更の件 2. 支部交付金算出に関する内規改定の件 3. 会費規程改定の件

<p>第 69 回理事会 2025 年 12 月 3 日 ホテルプラザオーサカ</p>	<p>報告事項 1. 支部活動報告 2. 委員会活動報告 3. その他（会員異動等）</p> <p>審議事項 1. 会員入会の件 2. 第 15 回定時社員総会及び定例理事会日程等の件 3. 規程類一部改定の件 優良ばね製造技能者表彰規程改定の件 会長表彰規程改定の件 支部交付金算出に関する内規改定の件（継続審議） 会費規程改定の件（継続審議）</p>
<p>第 70 回理事会 2026 年 3 月 25 日 日本工業倶楽部会館</p>	<p>審議事項 1. 会員入会の件 2. J SMA 規格一部改定の件 3. 委員会委員一部変更の件 4. 2026 年度 事業計画・予算の件 5. 2025 年度 会長表彰受賞者の件 6. 第 15 回社員総会の開催と招集の件</p> <p>報告事項 1. 2025 年度 事業報告の件 2. その他（会員異動等）</p>

5. 監事による監査等

監事は、監事監査等を次のとおり実施した。

2024 年度事業報告及び収支決算書については 2025 年 4 月 24 日にその内容を監査した。

6. 会員数

	支部別	2025 年 4 月	2026 年 3 月末	2026 年 4 月
正会員	東部支部	73	72	73
	中部支部	52	51	51
	西部支部	76	76	77
	合 計	201	199	201
賛助会員		(*) 35	(*) 35	(*) 35

*団体会員（支部協賛会）含む

以 上